



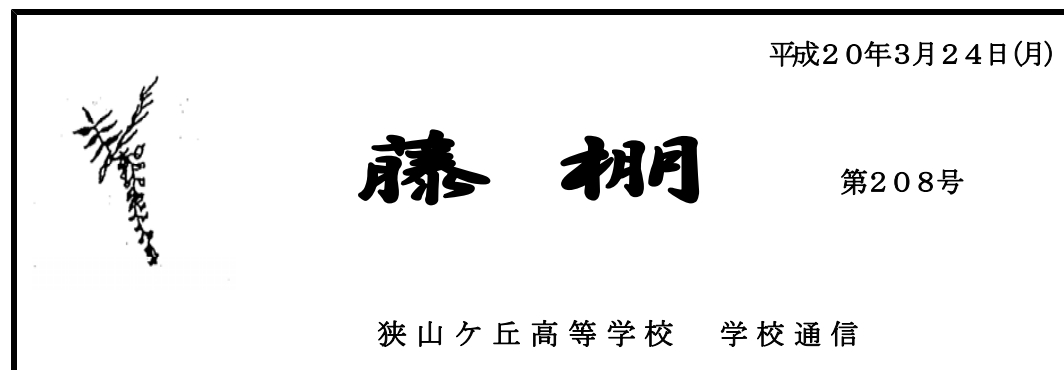
# 藤 棚

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>  
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

## 目 次

第 208 号	偉大な先輩の後継者たれ (H20.3.24 発行)
第 207 号	平成 19 年度卒業式辞 (H20.3.3 発行)
第 206 号	受験料補助を回る新聞報道に関して (H20.2.4 発行)
第 205 号	人類の来し方行く末 (H20.1.8 発行)
第 204 号	「交差点青になるまで富士を見る」 (H19.12.20 発行)
第 203 号	妥協せず戦え (H19.12.1 発行)
第 202 号	知性とは何か (H19.11.1 発行)
第 201 号	阿部寿明先生の急逝を悼む (H19.10.1 発行)
第 200 号	秋風の快さに (H19.9.1 発行)
第 199 号	夏に鍛えよ (H19.7.20 発行)
第 198 号	騙されぬ賢さを (H19.7.2 発行)
第 197 号	私の「先生運」 (H19.6.2 発行)
第 196 号	さらに高く飛躍しよう (H19.5.1 発行)
第 195 号	入学式辞 (要旨) (H19.4.10 発行)



<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

## 偉大な先輩の後継者たれ！

### 教頭 山崎 修

今年度の卒業生は本校の歴史に残る、大変な成果を挙げた。東京大学に現役で1名合格したのをはじめ、北海道大学1名、東京学芸大学2名、埼玉大学7名、千葉大学1名、横浜国立大学1名等、難関<sup>かつ</sup>国立大学に合格者が続々と出ている。東京大学に現役で合格者が出たことは、未だ嘗てなかったことで、埼玉県中に衝撃波が走っている。

私立大学においては早稲田大学33名、慶應義塾大学10名、上智大学11名、東京理科大学26名、立教大学39名、青山学院大学26名、明治大学55名、中央大学44名、法政大学50名、学習院大学6名、津田塾大学9名、日本大学82名、東洋大学93名、駒澤大学28名、専修大学32名、成蹊大学21名、成城大学6名、武蔵大学32名、明治学院大学19名等合格している。

昨年度と比較すると早稲田大学への合格者は、31名から33名と伸びた。慶應義塾大学への合格者は、昨年度の1名から10名へと、これも驚異的に伸びている。早慶上智東京理科大でまとめると56名から80名へ、MARCHにおいては187名から213名へと合格者が伸びている。その殆どが現役である。特筆すべきこととしては、総合進学コースの中から、MARCH以上の大学への合格者が多数出ていることである。この偉大なる先輩の後継者として、1・2年生諸君は、先輩を超える結果を出すべく全力を尽くして欲しい。今までの成績データ・学習意欲等を参考にする、それを可能にする能力を諸君は持ち合わせている。

## 自習室を活用せよ！

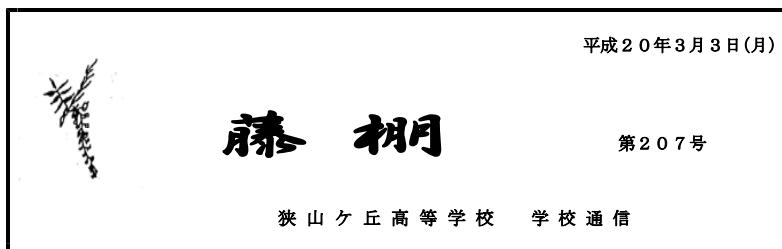
志望校を突破するための確実な方法は、自学自習に徹することである。理屈では分かっている。しかし、分かっているもなかなか実行できないという人もいる。そういう人は、自習室を利用することだ。自宅にいれば、TVやDVDはある、パソコンはある、メールもできる、ゲームもできるという実に恵まれた(?)環境である。そういう中で、自分の時間をコントロールし、必要な学習時間を確保出来る人は、自宅学習に取り組めば良い。しかし、誘惑に負け、流されやすいという人は、学校の自習室を活用することだ。自習室では、なかなかやる気にならなくても、勉強するしかない状態に自分を追い込むことができる。友人が頑張っている姿を目の当たりにすると、もう今日はこれでいいやと思っても、もう少し頑張ろうかという気持ちにもなる。こうして仲間と刺激しあい、切磋琢磨する中で、確実に実力が養成されるのである。1日にすれば、僅かな努力かもしれない。しかし、1週間、1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月と積み重ねると、予想もつかない程の実力を養成することが出来るのである。まさに「継続は力」である。今年、難関大学を突破した先輩は例外なく、特別自習室利用メンバーや自習室利用者であった。

今年、卒業生を出した、あるクラス担任の先生は、「難関大学に合格した生徒は、自学自習に取り組んだ生徒です。自習室をよく利用していました。休み時間などの細切れの時間も活用していました。予備校には行っていません。」と断言する。また、「こんなに難しい大学に良く受かったなと思うような生徒は、志望校の赤本(過去問)を中心に、自学自習に徹した生徒だった。」とも述懐しています。

自学自習に徹することが、受験に勝利する唯一の道なのである。明日からの春休み、自習室は、朝9時から夕方7時まで毎日利用できる。自由席である。時間を有効に使えば、1日約10時間の学習時間を確保することができる。このチャンスを是非とも活かしてほしい。新年度からは、自習室を365日開室するつもりで、準備を進めている。自習室を徹底的に利用し、自学自習の本格的なスタートを今日切ることが、受験に勝利するための大きな一歩になるのだ。

## 早稲田特別講義明日からスタート

今年度、総合進学コースの早稲田特別講義生から、現役で早稲田大学に、のべ4名合格した。今年、特別講義生全員の合格を勝ち取るべく、死力を尽くすつもりである。そこで、早稲田特別講義を希望している2年生は、春休みに3年生で学ぶ「リーディング」の教科書を読破する予定である。日曜日以外、毎日登校し長文読解に挑戦する。昨年、12月の特別講義の時とは違い新しい教材である。自学自習のみでなく、予習時間を設けた後、講義するというスタイルで進める。明日、25日(火)午後1時から1号館5階の教室でスタートする。早稲田特別講義希望者は全員参加すること。また、早稲田特講を希望していないが、明日からのゼミに参加したいという生徒の参加も歓迎する。



<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

## 平成19年度卒業式辞

### 狭山ヶ丘高等学校長 小川義男

ご卒業を心から祝福致します。これまで様々な苦勞もあった事と思いますが、諸君は、それに耐えて今日の良き日を迎えました。これは諸君の努力の成果であると共に、ご家族の皆様のご支援あっての事です。その高恩を忘れずこの後も精進して下さい。

高等学校卒業という資格は、現在諸君が考えておられる以上に大きな意味を持つものです。

諸君はこのように名誉ある資格を獲得できたのでありますが、私は、その志を果たさず、青春まつただ中において、その命を失った生徒達のことを痛恨の思いで想起致します。

横田伸幸君は、二年進級を前にして白血病に倒れました。見舞いに訪れた私も彼に会うことはできませんでした。無菌室に入院していたからです。その後、お医者様が彼を車椅子に乗せて桜満開の庭を一周してくれたという話に接しました。彼の病状が相当に重いものであることを察知し、私は担任の今は亡き安部先生と共に涙にくれたのであります。

また様々な思いがあったのでありましょう。自らその命を絶った青年もあります。交通事故で命を落とした青年もあります。それらを振り返り、また諸君の本日の晴れ姿を見るにつけ、私は校長として、教師として、痛恨の思いに堪えないのであります。

「死んだ人々が生き返っては来ない以上、生き残った我々には何が分かればよいのか」とは、かの「きけわだつみの声」の一節ですが、諸君には道半ばに倒れた友への思いを胸に宿し、生き続けたかったであろう彼らの分をもしっかりと生き続けてやっていただきたいのであります。

我が国は現在世界最高の工業水準を維持しております。自動車 薄型テレビ 録画装置カメラその他の光学機器 精密機械 優れた材質の鉄等々、その技術水準の高さは他の追随を許さないであります。

その一方で我が国が食糧自給率 30 パーセントの輸入大国であることも忘れてはなりません。フランスの 130% アメリカの 119% ドイツの 91% イギリスの 74% オーストラリアの 230% カナダ 120% 等に比べ大変な違いであります。遠からぬ将来我が国には必ず食糧危機が到来するでありま

しょう。その一方で、田んぼを初めとする広大な農地が荒れるままになっております。このような事実を前にして、さしたる危機も感じない我が国為政者の、無為、無策は驚くべきものであります

学校給食は、パン食を全面的に改め、ご飯中心の物に変更すべきでありましょう。主食は民族性そのものに直結する問題でもあり、米の消費量を高めることによって、自給率六割程度までは持つていかなければならないと思うのであります。

ひと頃「武器が平和を保護する時代は終わった」とのキャッチフレーズが流行致しました。しかし残念ながら今日においても、国境線を維持するものは軍事力であるという悲しい現実を認めないわけには行きません。我が国は現在、齒舞 色丹 国後 択捉の北方領土をロシアに不法占領されております。その面積は沖縄本島 4.2 倍に及ぶ広大なものであります。また韓国は我が領土である竹島を占領し、そこに官憲を常駐させております。軍事力を急速に増大させた中国が、尖閣諸島に対し領土的野心を抱いている気配もあります。国家主権の維持ということについても、諸君に常に関心を抱いて頂きたいのであります。

永く生きてきてしみじみ感ずるのでありますが、人生には引き潮の時と満ち潮の時があります。引き潮の時は何をやってもうまく行きません。満ち潮の時は、やることなす事うまく行きます。しかし満ち潮だけの人生がないように、引き潮だけの人生もありません。失敗続きの時期が長引こうとも、必ず潮の満ちてくる時があります。引き潮の時は、浅瀬でばちゃばちゃと焦ってはなりません。次に大きな潮が迎えに来ることを確信し、自らの内面蓄積に努めることが大切であります。やがて潮が満ちてきます。世の中は、真に力量ある者を見捨てたりはしません。大いなる明日の訪れを信じ、力を蓄積していただきたいのであります。

今ひとつ、徳川家康は、「不自由を常と思えば不足なし。足らざるは過ぎたるに勝れり」と申しております。奢侈逸楽は決して人間に幸せをもたらすものではありません。不自由を常と思ふ慎み深さを持って人生を生き抜いて行って下さい。

本日は、入間市長木下博氏をはじめ、多数のご来賓の皆様のご来駕を忝のうしております。ご多忙の中ご列席下さり、卒業生の前途に祝福を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

保護者の皆様、ご覧の通りお子さまは見事に成長されました。ここに謹んでお返し申し上げます。彼らはやがて国家の指導者として、必ずや国民の期待に応えてくれるのでありましょう。おめでとうございます。また校長として、皆様様の三年間のご協力に、深く感謝申し上げます。

名残は尽きませんが、卒業生諸君、いよいよ別れの時となりました。最後に一言、諸君、親を大切にしてください。親は、今は元気であっても、やがて年老い、衰え、諸君より先に世を去って行くのであります。昨今、国家による介護の名の下に、施設に老人の世話を委せる風気が専らであります。他人が行き届いた世話を老人に施せるものではありません。親の老後に対する第一の責任は、その子供にあるのであります。

子が親を大切にする気風は、やがて国民の伝統となり、将来諸君の子供が老人となったときにも、彼らを守ってくれるのでありましょう。親を大切に、諸君自身は、「若さとは未熟さである」と心得て、これからの人生を生きて行ってください。諸君、サヨナラ。



<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

## 受験料補助を回る新聞報道に関して

校長 小川義男

又しても大学受験に対する助成奨学金に対し、一部新聞の批判が報道され、校長として驚いている。助成は大学合格者の数を水増しするためと指摘する新聞もあるのだが、私並びに本学園にそのような意図は全くない。

昨年度の全国的な批判の動きもあり、本校は大学合格者の発表の仕方については、方針を根本的に変更した。これは、昨年発行された「読賣ウイークリー」を見れば分かるように、ダブル合格者の数と共に、合格した実人員、実際に進学した人の数も明らかにするものである。

例えば昨年の早稲田大学の合格者の延べ人数は31人、実人員は11人、そのうち実際に早稲田大学に進学した人の数は9人というふうなのである。今後の発表はすべてこれによるものとし、また現役、浪人の区別も明らかにする。更にどこにも合格せず浪人している生徒の数も明らかにするという姿勢である。既に「読賣ウイークリー」への情報提供に始まり、今後もこの姿勢を堅持することは、各報道機関にも明らかにしている。

そもそも合格発表にダブル合格を含むことは、これまであらゆる受験情報に共通している傾向であった。国民もそれは熟知しているから、さしたる混乱は起こらなかったのである。

増して本校の場合は、正門そばの表示板に、本人の同意も得て、すべて実名で発表しているのだから、どなたでも、その中から実人員を類推することはできる。少しも違法でも不当でもない公明正大さを本校は堅持してきた。

受験料を奨学金として優秀生徒に助成することは、昨年までは校長裁量で行ってきたので、本年は理事会の了承の下に奨学生規定を設け、これを三年生全員に公知させ、その上で該当者を定め、その生徒並びに保護者との意思疎通を図った上で今年も実行したものである。受験校の数も、最大で10校を限度としている。10校に及ぶ場合は極めて稀である。また出願の際には、経済的事情で奨学生として助成して欲しい旨、文書による意思表示も行って頂いている。

ところが、一部新聞によると「自分の家は金に困ってなどいない。親は苦笑しながら申請書に捺印

して提出した。指定された大学には希望しない大学もあった」という「事実」が報道された。

私は、特に本年に関しては、押しつけと感じさせるようなことのないよう厳しく所管に指導していたし、この新聞報道に関してはまことに驚嘆してしまった次第である。話し合いは様々な雰囲気で行われるから、一部に押しつけと取られかねない一面もあったのかと、その後詳細に調査してみた。時期が精神的安定を何よりも大切にせねばならぬ時期であるだけに、調査もひときわ慎重に進めねばならなかったが、現在までの所、押しつけに渡ったような事実は全く出てきていない。

念のため、該当生徒たちとの私ならびに教頭による面談も行った。「我々は実人員による合格発表を行うのであるから、いわゆる『水増し』など行う必要は全くない。しかし、前後の事情で、いささかでも強制、押しつけあるいは不本意なことがあったと感じたならば、後で担任と充分話し合い、表明した意思を撤回してほしい。その旨遠慮なく申し出てほしい。」と私、あるいは教頭から話した。しかし、その後の担任との話し合い、その他様々な接触を通じて、「不本意」「押しつけられた」というような事実はなく、単なる気配としても全く感じられなかった。一部新聞が指摘した、**該当者による情報の提供**は、現段階では存在しなかったものと判断せざるを得ない。

但し大新聞が報道しているのであるから、校長としては、今後もそのような事実があったのかも知れぬという仮定は謙虚に維持しながら、この奨学金制度の運用に当たっていきたい。しかし現在までの所、我々に不当、不適切な接触はなかったものと確信している。

センター試験利用の場合は、願書を送付するだけで、一定の国立大学並びに私立大学の可否判定を受けることができる。それを利用して己に対する評価を問い、その中から最適と信ずる大学を選んで進むと言うことは極めて好ましいことである。それがこのように厳しい批判にさらされると言うことは、時代の流れというものであろうと私は思う。

ところで今後のことであるが、私はこの奨学生制度は決して間違ったものではないと思うが、今回のように受験まっただ中で、このような論議が巻き起こされることは、生徒の人生そのものをも揺るがせ兼ねない深刻な問題である。そのあたりを考えれば、この制度に関しては、次年度以降相当再考しなければならないと考えている。このあたりは、年度が改まった段階で、熟慮の末、進むべき道を明らかにすることにしたい。

新聞報道に関して、保護者の皆様も、真相はどうなのかをお知りになりたいと思われるので、事情をご説明申し上げた次第である。

さらに疑念をお持ちの方には、私あるいは他の者から詳細ご説明申し上げる。但し最近、他の問題に関して、保護者と名乗りながら、氏名を明らかになさらず、一方的に意見を申される電話が数度かかってきた。(この問題に関しては一度)

意見を申される場合は必ず、氏名を明らかにした上でご発言、ご質問下さるようお願いしたい。投書等は格別として、電話による話し合いに関しては、氏名が明らかでない方とのお話は原則としてお断りする。

これまで、保護者あるいは卒業生と名乗って抗議的電話をかけてこられたケースが数件あるが、そのほとんどは、所属に関しては虚偽であったことが明らかになっている。このあたりに関しても、特段のご高配をお願い申し上げたい。

平成20年1月8日(火)



# 藤 桐

第205号

狭山ヶ丘高等学校 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

## 人類の来し方行く末

校長 小川義男

これまでも地球は温暖化、寒冷化のサイクルを一定のリズムで繰り返してきた。そして現在、地球は本来的には氷河期に向かっているのだそうである。ところが実際には温暖化の一途を辿っている。しかしそれは、必ずしも18世紀の産業革命以降に限ったことではない。北大の南川教授みながわによると、温暖化は既に五千年前から開始されていたそうなのである。

即ち人類が農業に手を染めて以来、大量の炭酸ガス、メタンガスが発生するようになった。メタンは炭酸ガスどころではない保温効果を有する。それが氷河期に向かう地球気温の動きを、温暖化させる役割を果たしてきていると言うのである。胃袋を四つ持つ牛のゲップが地球温暖化に大きな影響力を有すると言うのだから、私などは、ただただ驚いてしまう。それが産業革命以降、一気に加速されたわけである。

私はイチゴが大好きである。これは5月にならねば店に出回らないのが常識であった。ところが今は11月も半ばになるとスーパーの店先にイチゴが顔を出す。少し前までは、温室物おんしつものと言っても、1月半ばを過ぎなければ食べられないのが常識であった。このイチゴを季節はずれに提供するために、莫大な石油が温室で消費されている。王侯貴族が、ではない、私のような「場末の一老人」が「サガホノカ」などを、季節はずれに味わっているのである。何というエネルギーの無駄遣いであろうか。何という傲慢さであろうか。イチゴなど、それこそ「旬しゅんな時期」になるまで待っていればよいのである。季節はずれの美味を楽しむために大量の化石燃料を消費し、大気を汚染し、地球環境破壊に手を貸すなどとても許されることではない。このような傲慢さの果てに、結局地球人類は破滅していくのであろうか。

南川教授の話では、地球の気温はたしかに変化するが、現在もその本当の原因は分かっていない。生じてくる温暖化には、未だ我々には分からない、大気汚染とは別な要因が関わっていると思われるのだそうである。

海底には大量のメタンハイドレートが存在する。水分子にメタンが結合してシャーベット状になったもので、メタン水酸化物とも言われる。これは海底だけでなく、シベリアなどの永久凍土の下にも存在している。日本海周辺のメタンハイドレートは、天然ガス使用量に見積もると、100年分にも及ぶそうである。貴重な資源であるが、これが温暖化その他の原因でガス化し始めると、それが地球気温を一挙に高温化させる危険がある。温暖化が一定の許容水準を超えると、それが地球環境全体を高温化させる相乗効果を生ずるかも知れないのである。

さて、正月まっただ中の我が国であるが、ここで諸君と共に考えたい。文明の発達とは本当に素晴らしいことだったのであろうか。空飛ぶ鳥や海中を泳ぐ魚に比べて、人間は彼らより本当に幸せなのであろうか。

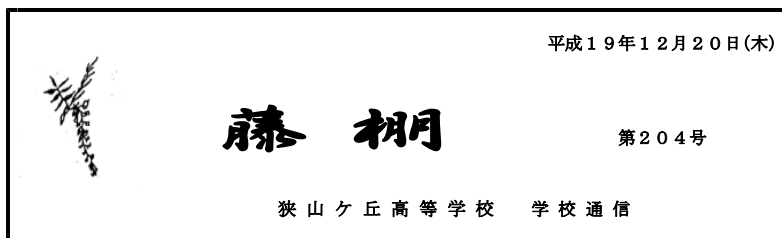
やがて13億の中国人、10億のインド人が、日本人、アメリカ人、ヨーロッパ人と同じように自動車を乗り回すようになる。アフリカ、中南米についても同じである。これを賄うに足る石油は地上にはない。それどころか、その燃焼に必要となる酸素の絶対量さえ不足を来すに至ることが確実なのである。

「豊かなことはよいことだ」「便利なことはよいことだ」それが産業革命以来の人類の合い言葉であった。しかし今は自らに問いかけなくてはなるまい。「豊かなことはそれほどに素晴らしいことだったのか」「便利なことは、それほどに喜ぶべきことだったのか」と。

少子化が憂慮される我が国であるが、世界的には今も人口が爆発的に増大しつつある。急速な工業化との相乗効果から考え、人類は今や、その存続が危殆きたいに瀕する状況に置かれているのである。貧しく、美しく、慎ましくという東洋的価値観に立つことなしに、人類は新しい明日を模索することができないのではあるまいか。「家は漏れざるほどに、食は足らざるほどに」という古人の知恵が、今更のように思い出されるのである。

高校生諸君は、これから更に80年の人生を生きなくてはならない。諸君の子孫も又、この先無限の連鎖を重ねて永遠に生き継いで行かねばならない。そのような人類永遠の繁栄を可能にするものは何か。難しい問題であるが、少なくともそれが、西欧的な物質至上の価値観でないことだけは間違いない。考えてみればキリスト教も仏教も、貧しさ、慎ましさの中に人間の本当の幸せはがあると教え続けてきた。だとすれば、一体我々は歴史のどの段階で道を踏み誤ってしまったのであろうか。

年頭に当たり、諸君には、諸君自身の来し方、行く末と共に、人類全体の来し方行く末にも思いを回らして頂きたいと願うのである。



<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

## 「交差点 青になるまで 富士を見る」 3A 明奈々瀬 あかしななせ 校長 小川義男

タイトルの俳句は、勿論私の作品ではない。3Aの明奈々瀬さんが二年生の当時に詠んだ歌である。「伊藤園新俳句大賞」に入賞した。伊藤園のボトル茶「お〜いお茶」のラベルに掲載されている。校長室にも明さんが三本くれたので保管している。中身はいつまでも保つわけではないから、適当なときに飲んでしまうが、ボトルは永久に保存したいと思う。

それにしても、何と新鮮な俳句だろうか。富士が美しく見える人間の風土と、信号が「青になるまで」待つときに、ふと富士を見つめるといふ、高校生らしい生活感うらうら、初々しさが溢れていて、接する者にほのぼのとした思いを与える。それだから、このラベルでも冒頭に掲載されたのであろう。

同時に掲載されている他の句もご紹介しよう。

「じっくりと 花いけるように 今を生く」16歳

「シャンパンの 泡の向こうの 万華鏡」40歳

いずれも素敵だが、明さんのような新鮮さ、息づかい、生活感は感じられない。「万華鏡」は、技巧に走りすぎた感もある。

「押し花を 挟んで恋を 封印す」40歳

許されぬ恋だったのだろうか。それとも届かぬ思いを歌ったものなのだろうか。いずれにしても、その恋に関わる花びらを本に挟んで、諦め得ぬ恋を諦めようとする悲しい歌である。一途でひたすらな恋でもあろう。人生には、そのように、悲しみを封印して過ぎ行かねばならぬ峠もある。

「深呼吸 私の元気を 入れ替える」41歳

何と健康な歌だろう。お会いして、その明るさ、健やかさに触れたいと思うのは私だけではあるまい。

頂いたボトルに掲載されていたのは以上の5句である。みんな精一杯に生きていることが伝わり「伊藤園」に感謝したい思いに駆られた。

年の瀬である。この一年は諸君にとってどのような年間だったろうか。除夜の鐘にしばし耳を傾け、来し方、行く末にしばし思いを回らせてはどうか。

NHKの紅白歌合戦はつまらないものになってしまった。国民的行事と讃えられた頃、私はこの番組を楽しみに一年を生きたとさえ言える。NHKホールに出かけて、生放送を楽しんだこともあるくらいだから、「病膏肓」と言えよう(コウモウと読むのは間違い)。それが何故あんなつまらない番組になってしまったのか。それは、視聴率を上げようとしてあらゆる階層に媚びたからである。若者を惹きつけたくてそれらしいタレントを参加させると、壮年、老年が離れていった。昔コンサイスという英和辞書があった。万人向けの名作だったのだが、誰もが使える辞書は、本当の意味では誰の役にも立たぬということで、この辞書は勢いを失ってしまった。紅白歌合戦はこの誤りを繰り返したものである。若者離れなど恐れる必要はない。若者もやがては壮年、老年になるし、親が観る番組は、子どもも観るものなのである。何事にまれ、媚びてろくなことはない。私は紅白歌合戦など諦め、暮れはゆっくり名画でもビデオで楽しもうと思っている。

除夜の鐘は百八つ鳴る。人間には百八つの煩惱があるのだそうである。その煩惱を虚空の彼方に追いかけて、除夜の鐘を鳴らし新しい歳を迎える。民族の文化の優しさや深さが感じられるのである。

三年生には厳しい戦いの季節である。行く末に勝利もあろう。敗北もあろう。しかし考えて貰いたい。勝敗いづれにせよ、大学入試に挑戦できるとは、それだけで大変な幸せではないか。そのありがたさを噛みしめつつ、今日の厳しさに耐えることだ。およそ戦いとは、いかなる場合にも自己内面に潜む弱さとの戦いである。その弱さに次々として立ち向かい自らの明日を切り開くことだ。

敗北を恐れてはならぬ。確かに勝利に勝る敗北などないが、人は敗北からも多くのものを学び取ることができる。「涙と共に冷たいパンを嚙ったことのあるものでなければ、友として語るに足りない。」

いたく冷えし

おにぎりを涙に融かしつつ

飯食う朝も 我が心燃ゆ

私が悲嘆のどん底にあったときに詠んだ歌である。失敗の幻影に怯えず、確かな勝利を目指して戦え。だが敗北も恐れるには足りぬ。私は挫折とは新しい可能性の出現だと心得ている。

生徒諸君に取り、平成二十年が、幸せで輝かしい歳となりますように。

平成19年12月1日(土)



# 藤 棚

第203号

狭山ヶ丘高等学校 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

## 妥協せず戦え

校長 小川義男

「晩秋は去りゆく人の後ろ姿に似ている」と言う。

先日一年生と共に、快晴の河口湖を一周したが、陽光にきらめく紅葉の美しさには息を呑んだ。その向こうには白雪を頂く富士がある。しみじみこの国がどれほど美しい自然に恵まれているかを思った。

フランスの詩に「シモオヌ お前は落ち葉踏む音は好きか。」という一節があった。まことに秋はもの思うことの多い季節である。人生に、失意の時、挫折の時は避けられない。しかし何を失おうとも、四季折々の季節があり、青空と、そこに去来する白雲があれば、それだけで、人生は生きるに値する。

しかし三年生は、季節の移り変わりなどに心を奪われているゆとりはあるまい。人生で最も重要な峠だ。しばしは、すべてを忘れて、それぞれの目標達成に専念するほかはあるまい。

今一番大切なのは、目標を切り下げずに戦うことである。行く手に峻険な山岳が聳えていれば、ここを通過せずに目的地に到達する安易なコースはないかと模索したくなる。だがそのように楽な道はない。力を尽くして障碍を乗り越える以外に諸君が進む道はないのだ。

クラーク先生は札幌農学校に勤務した後、郷里アメリカに帰ることになった。学生達は馬で島松まで送っていった。先生も馬で、港苦小牧を目指したのである。別れ際に先



生は馬上で何かを叫ばれたようであった。それははっきりとは聞き取れなかったが、後に学生達で話し合い、先生はおそらくこう語られたのであろうという結論に達した。それは次のような文章である。

**Boys, be ambitious, like this old man!**

「少年よ大志を抱け」という訳はあまり適切でないと言われる。クラーク先生が「野心」を抱いている方だったとは思われないから、たしかにこれは適訳ではない。むしろこれは「小成に安んずるな」と訳するのが正しいのだそうである。クラーク先生自身が小さな成功に安んずることなく、常に新しい明日に向かって歩み続ける方であったろう。なるほど「野心」という訳は適切ではない。「私は年老いてはいるが、小さな成功に安んじたことはない。常に新しき明日に向かって精進し続けているのである。若者達よ。この老人のように、今日の小なる成功に安んずることなく、前進し続けたまえ。」これがクラーク先生の真意だったのであろう。

「小成に安んずるな」大切な言葉と思う。三年生諸君は、「小なる成功」と言えども、未だ体験しているわけではない。しかし大なる成功に向かって、今諸君は、己に鞭打ち努力し続けている真っ最中である。

このような苦難の時、諸君の耳元に悪魔の囁きが聞こえてくる。「そんなに苦しむことはないのだよ。もっと易しい大学に挑戦すれば良いではないか。」ここから目標を切り下げ、もう少しのんびりした毎日を楽しみたいとの誘惑が諸君を惑わせる。

だが 18 歳の時の大学入試くらい、人生に大きな影響を及ぼすものはない。それは長く実人生を歩いてきた私だから良く分かる。妥協しないことだ。妥協せずに戦うことだ。

敗北も人の人格に積極的影響を及ぼす。しかし弁えていたまえ。「勝利に勝る敗北」などありはしないのだ。挫折することもあるかも知れぬ。挫折は新しい可能性の出現である。挫折にめげず新しい明日に向かって、次なる一步を踏み出さなければならぬ。しかし今は、その挫折を回避するために全力を尽くすべき時なのである。

覚えておきたまえ。世の中に「本当の敗北」がある。困難を恐れ、戦いそのものを事前に回避すること、戦わずして敗れること、それが本当の敗北なのである。

廊下を歩く、諸君のバネのようなしなやかさ、その声の若さ、美しさ、そのすべてが私にはまぶしい。若さに勝る価値などどこにあるか。その青春まっただ中に生きる幸せを噛みしめ、ひとときを目的達成に向け完全燃焼してもらいたい。やがて桜の季節も訪れる。花吹雪の中で勝利の美酒に酔い痴れる日も近い。諸君、頑張りたまえ。



<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

## 知性とは何か

校長 小川義男

私は知性とは、他人に騙されない賢さだと考えている。もう一つ挙げるとすれば、危険を事前に察知する能力だろうか。

ある宗教団体で、二十人以上の人間が、六十五歳の老婆をリンチの末殺害したそうである。宗教に関しては、このような陰惨な殺人が跡を絶たない。信仰という美名のもとに殺害されるのだから、殺される者も哀れだと言うべきであろう。

先日自宅のトイレが水漏れするようになったので、緊急時に駆けつけてくれると平素宣伝している業者に電話をした。背の高い見栄えの良い、六十前後の男がかけつけてくれた。ところがその男は、業者であるにも関わらず態度が尊大なのである。とりつく島もないくらい尊大で、何かを尋ねてもまともに受け応えをしない。無言のままに故障箇所を点検する。部品交換の必要があるとかで、何かを交換したらしいが、その費用が一万八千円である。その他にも壊れている部分があるから、これはメーカーに修繕に出した方がよいと言い張る。私はそれは要らないと言ったが、彼の態度は業者には珍しいくらい強引である。おそらく老人と見て、強引に言い張れば、その主張に従わせることができると判断したのである。

強引な方法で老人に迫り、「家屋の腐食を避けるため、絶対に必要だ」と主張して、床下や天井裏に百個近い扇風機を取り付けさせ、莫大な料金を徴収した悪質業者があった。私が遭遇した業者は、これほど悪質ではなかったが、強引さの点では、似たり寄ったりと言うべきであろう。

「いや、それは良い。」何度か押し問答が続くうち、私の姿勢に、「これは世間一般に在る年寄りとは少し違う」と思ったのかも知れない。諦めたか、彼は不満そうに私の家を去った。理不尽に押し切られない意志の強さも、ある種の知性だと言えるので

はないだろうか。

「振り込み詐欺」とか怪しげな宗教とか、あるいは押し売り商法とか、善良な人間を騙して利益を貪ろうとする輩が跡を絶たない。中には、自分は釈迦の生まれ代わりで、あの世もこの世も自由に行き来できるなどと言い切る強者もいる。こうまで確信ありげにうそを言われると、まともな人間なら、つい信じ込んでしまうこともあるかも知れない。しかし、そのような「真っ赤な嘘」を看破することも一つの知性だと思うのである。

サラ金から金を借り、法外な利子に苦しめられている者がいる。あるサラ金のコマーシャルに「またお会いしましたね。VIP氏」というのがあった。サラ金に金を借りに来る人にVIPがいないとは言わぬが、それにしても、ずいぶん人を侮ったコマーシャルではないだろうか。こんなのに吊られて、遊びの金をサラ金で借り、身動きできなくなるなどと言うのは、知性欠落の典型であろう。

自転車でブレーキもかけずに急坂を下っていく生徒がある。曲がり角で、安全を確かめずに突っ込み、大けがをするケースもある。危険を事前に察知し、これを未然に防ぐという力、事後予測力も知性だと私は思う。

電車の中で、人も無げに大声で話すグループがある。その場所が公共の場であり、自分たちだけの生活空間ではないことを理解するだけの知性がないのである。知性とは、静かに語ること、小声で語ることであり、言い切っても過言ではない。当事者以外の人々がそこに存在しており、その人々に対する気配り、心遣いができるかということこそ知性にほかならないのである。

一番恥ずかしいのは、相手と語りつつ、その内容を相手以外の人にも聞こえるように、聞こえよがしに声を出して語ることである。電車等で、稀にこのような人物に遭遇する。聞いている私の方が恥ずかしくなる。

レストラン等で、実に感じの良い女性店員に出会うことがある。しかし日本語がたどたどしい。中国、韓国、東南アジアに育った人たちらしいのである。接触して実際に感じがよい。一言で言えば、彼女たちには「抑制が利いている」のである。日本育ちの娘に、このような抑制は珍しい。「私を今のあるがままに認めなさい。私はこのまま素晴らしいんだから」という抑制の欠落が日本の若者には広まっている。

中国からの本校への留学生が、私の後ろから「お早うございます。」と声を掛けてきた。何と彼は、私に追いついた時、自転車を降り、それを押しながら、語りながら学校まで同行してくれたのである。

中国に対する様々な批判が生まれている。しかし、事、教育に関する限り、我が国は、中国にも韓国にも東南アジアの諸国にも、遙かに後れを取ってしまったと私は、自転車を押す彼と語りながら痛感したのである。



<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

## 安部寿明先生の急逝を悼む

校長 小川義男

安部先生は、去る九月二十二日 午後七時頃急逝された。死因は心不全と伺っている。二十五日火曜日、私から全校放送で生徒諸君に訃報を伝えた。またその際、全校でご冥福を祈り黙祷を捧げた。

先生はまだ五十四歳という若さであった。教師としても、サッカー部の顧問としても、この後やり遂げたい数々の抱負があったに違いない。その無念の程、察するに余りあるものがある。

先生はクラスの生徒にもサッカー部の生徒にも、心から慕われていた。先生の死が一部の諸君に伝わったのは二十三日であったが、当日は三年の「マーク模試」の日であった。訃報に接した部員、クラス生徒の一部は、衝撃のあまり試験を放棄せざるを得なかった。中にはそのまま外出して、一時行方が分からなくなった生徒もある。先生がどれほど周りの生徒に慕われていたかを、改めて痛感させられたのであった。

先生は北海道のご出身である。彼は北海道鴻之舞金山、極北の地に生まれ育った。当時鴻之舞は金採掘の全盛期にあった。私は身内の者が同金山で技師をしていたので、しばしばこの鉱山を訪れた。山深い僻遠の地で、寒さもひととおりでない。熊も出没したであろうと思うが、地域には無数と言っても良いほど多数の社員住宅が並び、商店も軒を並べて、別天地の感があった。まだ幼子であった筈の安部先生は、その頃、その社宅のどこかで遊んだり勉強したりしていたのではないだろうか。

先生は、言い出したら聞かないという強さと激しさのある人であった。しかし、その背骨を貫くものは底知れぬ善意であり、周囲の誰からも愛され親しまれた。安部先生が、今はもう世にないと思えば、痛恨の思いが胸底を突き上げる。彼はもうこの世にないが、若く元気な諸君には、安部先生の分も明るく元気に生き抜いてもらいたい。先生も泉下にあつて、そのことを切に望んでおられるであろう。

諸君と共に安部先生の御霊安かれと祈る。

## 英語の学習法について

今年の三年は極めて優秀である。最近の模擬試験結果を見ても、史上最高の水準にあるらしい。だがひとつの欠陥がある。彼らの高い水準は、主として社会科、国語科の水準の高さによるらしいのである。英語の点数があまり振るわない。

ご承知の通り、大学入試は事実上英語の試験だと言われる。しかるに英語が不得意だというのは看過しがたい事実である。一年の当時、近隣を引き離していた実力は、その後どのような経過を辿ったのであろうか。

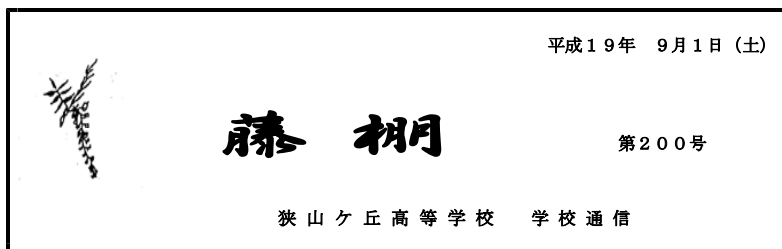
これは一、二年生にとっても他人事ではない。そこで全校の諸君に、再び「長文読解に立ち返れ」と呼びかけたい。穴埋め問題、文法問題、英作文問題等を前にすると、どうしてもこまごま、ちまちまとした内容を説明してある参考書中心の学習に流れがちである。これでは絶対に実力がつかない。

長文読解に没頭し、語彙を豊かにすると共に、構文に慣れ語感を育てることによって、初めて英語の底力がつくのである。

これまでの教科書三冊を、じっくりと読み返してもらいたい。確実に読解できたら、CDを聴き、音読を繰り返す。場合によっては教科書一冊を書写するのも良い。このような地味な努力を重ねてもらいたい。

文法上理解できないところは、長文読解のプロセスで、その不明な部分について参照するという形で勉強すると良い。その上で最後に、文法の問題集、作文の問題集に当たるのである。

優秀な三年生である。必ず弱点である英語を克服してくれることであろう。諸君の健闘に期待する。



<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

## 秋風の快さに

### 校長 小川義男

路上に蟬の死骸が幾つも転がっている。残暑はなお厳しいが、秋の気配は確かな足取りで近づいてきている。蟬の羽は美しい。透明プラスチックなど存在しなかった私の少年時代、あの羽ほどに美しく透き通った物はほかになかった。白い大きな帽子を被り、餅竿を手にして蟬取りに明け暮れた夏の日が懐かしい。

蟬は十年近くも土中に過ごすと言う。その果てに地上に現れ、美しい声を響かせるのだが、幸せな地上での日々は意外に短い。聞く所によると、十日にも満たないのだそうである。その死骸に接すると、生きてあることのはかなさを感じるが、それでも蟬自身にとっては、精一杯生きた思いがあるのであろう。惨めさは感じられない。蟬は死んだ後でさえ美しい。

そんな暢気な話をしている時ではない。三年生にとっては、生涯最も重要な戦いとも言うべき大学入試が迫っているからである。一、二年生にとっても他人事（ひとごと）ではない。「燈火親しむの候」「読書の秋」である。悔いなき戦いを展開して欲しい。

「頑張らねばならぬ」と思えば思うほど頑張りがたくなるのが人間である。私の高校三年生の秋がまさにそうであった。勉強せぬまま、初雪を迎えた朝の切ない思いは、今も私の心に切実である。諸君の中にも同じ思いの人がいるかも知れない。

高校三年生の秋に頑張らなかつた事実は、永く私の劣等感を構成していた。しかし最近になって私は、それが短所であると共に、長所でもあった事実に気がついた。私が有する生来の、この「いい加減さ」は、実は私の精神の安全弁でもあったからである。波瀾万丈の人生を生きてきた私は、諸君には想像もできないような限界体験を乗り越えて今日に至った。生来のこの「いい加減さ」なしに、このような修羅場を生きることは、不可能だったと思われるからである。映画「風と共に去りぬ」の最終場面で、言語に絶する厳しさに直面したヒロイン、スカレットオハラは次のように叫ぶ。「もう頭が変になりそう。タラに帰って、明日考えましょう。明日は明日の風が吹くのだから。」私は諸君にも「明日考える」野太さを期待したい。

但し入試は確実に迫ってくる。入学試験の準備だけは、明日考えたのでは間に合わない。そして、この半年の間をどのように過ごすかは、諸君の人生に決定的とも言えるほどに大きな影響を及ぼすのである。野太さも大切だが、小心さも忘れてはならない。己の怠惰に鞭打って、厳しく学び続ける姿勢を、少なくともこの半年は維持してもらいたい。

諸君の心に、そろそろ指定校推薦などに傾き、厳しい葛藤を回避したいとの気持ちが芽生える頃である。戦って敗れるのは本当の敗北ではない。その敗北は、次なる戦いにおける偉大なる勝利を約束するからである。本当の敗北とは、戦わずに敗れること、戦いの緊張を恐れて、指定校その他の安易なコースに逃避することである。

確かに今年は早稲田の指定校枠も獲得できた。本校の保有する指定校も、相当のランクの大学を含むようになった。しかしこんなものを当てにしてはならぬ。指定校は、部活動その他、公のために尽力し、心ならずも勉学の時間を確保することができなかった学友のためにあるものと考えてもらいたい。しかしその指定枠も、早稲田クラスになれば、母校の恥になるような実力の者に配当するわけには行かぬ。それはそれで相当の実力は蓄積しておいてもらわねば困るのである。

まだ六月もある。現在の偏差値に関係なく、どのような大学にも挑戦できるのがこの時期である。進路に関しては、担任、進路担当その他、身近な先生に相談してもらいたい。私も相談に乗るから、気軽に校長室を訪れてもらいたい。メール、あるいは携帯でアポイントを取っておいで下さると有り難い。

私のメールは次の通りである。[ccw67900@hkg.odn.ne.jp](mailto:ccw67900@hkg.odn.ne.jp)

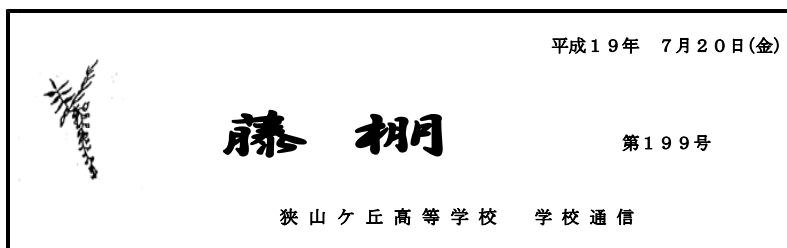
都合で携帯電話の番号が変わった。当面はこれまでのものも使えるが、一月以降は新しい物だけになるので注意して欲しい。新しい携帯は次の番号である。080-3217-8693 ソフトバンクだから念のため。

誰しも入試を半年後に控えると弱気になる。目標を切り下げたくなる。易きにつきたくなるのは人情と言うものである。しかし易きについてはならない。あくまでも第一志望を高く掲げ、戦い抜いて行かなければならない。入試に落ちたからと言って命を落とすわけではない。怪我をするわけでもない。あくまでも戦い続けて行けば良いのである。可否は相手が判定する。諸君自身が大学当局の疝氣を病む必要はない。

専門学校に進むのも良い。だが、大学に合格できないから専門学校を選ぶというのであってはならない。今は「大学全入」が可能な時代である。これを利用し、できれば学歴を上積みしてもらいたい。その上でダブルスクールという形で専門学校を利用する方法もあるのである。

英語の力が足りないことを恐れるな。英語は三ヶ月で驚くほどに実力が伸びる。その秘法は、迷わず長文に挑戦し、音読を繰り返すことである。

どの大学に進むかは、諸君の人生に決定的と言えるほどの影響を及ぼす。目標を切り下げるな。自らを戒め自己内面に潜む弱さと戦え。諸君に、社会的に有力な地位にまで昇ってもらい、現在の社会に潜む様々の矛盾を克服して頂かねば困るのである。



<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

## 夏に鍛えよ

### 校長 小川義男

四十日間の夏休みが始まる。勉強に、部活動に日々厳しく生きてきている諸君であるだけに、この夏休みにかかる期待は大きかろう。先生方に伺っても、夏休みは高校生活で最も楽しく充実した期間であったらしい。烈日の下で、眼前に広がる色濃い緑を、また太陽に照り輝く海の青さを見つめていけば、誰も生きていく実感を実感するのではないだろうか。

私は諸君に、夏山に登ることを勧めたい。部活動で連日汗を流している諸君は別として、そうでない人々については、運動の絶対量が不足している。歩行の量も確実に不足しているはずだ。精神は肉体をよりどころにのみ存在できる。肉体的な衰えは精神の衰弱をも招きやすい。夏山に登り、極度の疲労の果てに、簡素な握り飯を食べたりすれば、生きていく喜びが身体の内からしみ出してくる。

鬱病というようなものは、戦時中には存在しなかった。現代にそれが多く見られるのは、生きていくことの喜びを実感する機会が少ないからではないかと思う。着る物、履く物、食べる物、それらのすべてが不足していた。小学生が空腹の状態に置かれることを想像してみると良い。それだけに、おいしい食べ物に接したときには、しみじみと生きていく喜びを味わうことができたのである。

豊かな時代である。不足を体験することは極めて難しい。移動は自動車だから、重い荷物を背負って坂道を上ったことも、長距離を歩き続ける経験もない。これでは、動物としての人間が健全に育たないのではないだろうか。

だから私は「総合学習」などと言うよりは、歩行の絶対量、筋肉労働の絶対量を増やすような行事を学校に持ち込むべきだと考えている。それは簡単なことではない。それだけに生徒諸君には、山や海、野原で、動物としての自分を錬成することを求めたいのである。

美術館や音楽会に出かけて、感性を磨くことも夏の大切なテーマである。強い肉体と豊かな感性を磨くこと、これを諸君の夏の計画に取り入れてもらいたい。

一斉授業にはどうしても一定の限界を伴う。それは生徒全員を対象にしなければならないだけに、一人一人に取っては、いささか無駄な話もある。本校の東大特講が、教師の指導の下にはあるが、自学自習中心の教育に重点を置いているのはこのためである。

この点夏休みは、嫌でも自学自習を進めなくてはならない。自分の弱点と思うところを、自分なりの工夫で克服する努力を重ねれば、実力は驚くほど向上する。特に三年生では、「夏を制する者は入試を制する」とまで言われる。

一、二年にとっては、読書も忘れてはならないテーマである。最近のテレビは何とも低俗である。お笑いタレントもの、クイズものなどは正視に耐えない。視聴率競争に追われてではあろうが、アナウンサーや司会者が、異様にイントネーションを「個性的に」強調する。日本語の品位を落とすものである。

その点読書は、何と言っても選択の段階で主体性が前提になる。「読書とは、世代を超えて天才と交わり、淋しいときには孤独を慰め、嫌になったらぱっと別れられる、人生最高の友である」とは、テレビやラジオで私がしばしば語る言葉であるが、ここに読書の素晴らしさが言い尽くされているのではないかと思う。

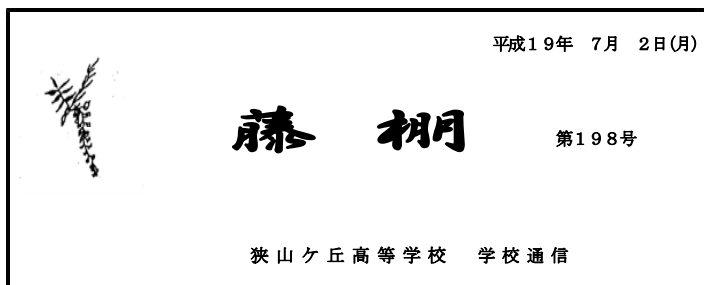
優れた友や師、偉大な人物に巡り会えば、これにこしたことはない。しかし英雄も、優れた人物も、そうそう向こう三軒両隣にちらほらしているものではない。それを可能にするものこそ読書にほかならないと思うのである。

イギリスの昔の貴族邸宅を訪れたりすると、必ずと言って良いほど図書室がある。ゆったりとした部屋にデスクや椅子が置かれてあって、その家族が、ここを拠り所にその知性を磨いていったことが伺われる。図書館の発達した現代である。入間市にも四つの図書館がある。しかし私は、本は借りたものではなく、自分の所有する相当量を書庫に蓄積し、思いつくままにこれを取り出し、読み進めることこそ、最高の贅沢だと思うのである。

「明窓浄机」という言葉がある。中国の言葉かも知れない。大きな明るい窓の所に机を持っていき、机の上をきれいにし、「さあ、これから読むぞ」と言うときが、知識人達にとり至福の時だったということなのであろう。

昨日頼山陽の「日本外史」を手に入れた。18C-19C、江戸後期の儒学者、史論家、詩人である。「日本外史」は、岩波文庫で三冊の大著である。源氏、平家のオリジンから説き起こして、彼の時代までの我が国の歴史を語っている。文庫本は、普通の大きな本と同じ分量がまとめられているものだから、これが三冊というのは可成りの大著である。漢文だが割と読みやすい。

私は「日本外史」は、もっとコンパクトな内容のものなのだろうと考えていた。その量的、質的豊かさに接すると、残された人生の中で、このような大著を何冊読破できるかと思えば心細い。これまで無為に過ごしてきた歳月が惜しまれるのである。この夏休みには、これを読破したいと思う。生徒諸君も低俗なテレビやゲームに時を過ごすのではなく、優れた作品、古典に接することに生き甲斐を感じる知識人として育って行っていただきたいと願うのである。



<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

## 騙されぬ賢さを

### 校長 小川義男

退職後、詐欺に一番引っかけやすいのは警察官と教師だそうである。警察官は警察権力を行使してはいるが、民事関係の法律に詳しいわけではない。在官中の警察官を騙そうとする人間は少なからうから、警察官は、自分を騙す人間は世の中にあるまいと考える。そこが一番騙しやすいところなのだそうである。

教師は、もともと人を信ずるのが「商売」である。だから当然詐欺にも引っかけやすい。中には、教え子に騙されて巨額の詐欺にひっかかったケースもあるのだから、何ともお恥ずかしい限りである。

高校生も詐欺に引っかけやすい。諸君は高校生である今日も将来も、他人に騙されぬ賢さを身につけておかねばならぬ。

先ず「宝くじ」などは買わないことである。趣味として絶対駄目というわけではないが、事実上存在しない僥倖に大金を投ずるとするのは、悪い癖がつくもどである。

パチンコは良くない。絶対に出入りしない方が良い。この六十年、パチンコ屋は一貫して隆盛を極めている。あれは実に儲かる商売であるらしい。すなわち、出入りする客の損金が彼らを儲けさせているということなのである。

パチンコも、最近では電動式なため、単位時間あたりの投資量が馬鹿にならない。夢中になり、サラ金から金を借りて身動きが取れなくなったというケースが珍しくない。

サラ金からは絶対に金を借りてはならぬ。これは騙されているのでも、詐欺に引っかけられているのでもないのだが、その金利が実に歴大なのである。我が国に利息制限法という法律があるが、その制限利率も遵守されてはいない。超過利息も、一旦支払ってしまえば、

これを取り戻すことは事実上難しいのである。

今は金余り時代だ。銀行もカード一枚で金を貸してくれる。だが、その金利も信じがたいほどに高額である。サラ金は、これを遙かに上回る金利を取るのだから、借りるなら、せめて銀行にとどめ、銀行も貸さないような場合は、決して他の金融機関に手を出したりしないことだ。

気をつけなければならないのは住宅ローンである。今は頭金ゼロでローンを組んでくれる銀行も少なくない。金利も2%とか3%とか、驚くほどに低利率である。返済額も少なく済むから、相当高額な不動産を購入する傾向も少なくないのである。

今は人口減少、「家余り」の時代である。少子化で子どもの人数が少ないのだから、ひとりで不動産を二つも三つも所有している人が少なくない。結局不動産は長期的に見れば値下がりせざるを得ない宿命を背負っているのである。

だから記憶しておいて欲しい。不動産が値下がりした場合には、その不動産の価値よりずっと高い額のローン(借金)が、君らの肩にのしかかってくるのである。家を売り払っても、その収入を超過するローンの負債だけは、決してなくなるらない。

今は低金利時代だ。だが、世界的に稀な我が国の低金利は決して長くは続かない。やがて高金利の時代が始まる。固定金利と言っても、世の中には事情変更の原則というものもあるから油断ができない。特に今、変動金利のローンを組んだりしていたら大変なことになる。固定金利より変動金利の方が、当面の利率は低いから、ついそちらの方に手を出したくなりやすいのである。

不動産が値下がり傾向にある時代には、不自由を忍んで、金を貯めてから住宅を手に入れるという生き方も、決して捨てたものではない。

街頭で「アンケートにご協力を」と言う詐欺まがいの商法が行われている。数十万を、投資すれば、半年後に倍になって返ってくる、というような甘いセリフで、巨額のローンに申し込ませるのである。20歳未満であれば、その法律行為は取り消せるが、それとても決して容易なことではない。成年(20歳)に達していれば、弁済能力のあるなしに関わらず取り消すことができない。結局親に多大な迷惑をかけることになってしまうのである。

女性の場合は、インターネットなどでの悪質な誘いによって、被害に誘い込まれる危険がある。一旦彼らの毒牙の犠牲になると、全生涯を失う結果となる。結婚した後までつきまとわれ、過去の事実によって恐喝し続けられる結果になるからである。

やくざや悪質な男につきまといわれると言うのは、騙されぬだけの賢さを身につけていなかったという事でもある。そのような被害に遭わぬよう、平素から充分心がけておくことだ。高校生の性被害は、諸君が考えているより多い。国がそれだけ乱れているということでもあるのだが、それだけに、安易に見知らぬ人間と関わりを持たぬよう注意しなければならぬのである。

間もなく夏が来る。心にも隙を生じ易い季節である。インテリゲンチャーとは、容易く他人に騙されぬ人間であると私は思う。諸君に慎重に生きる姿勢を切望するのである。



<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

## 私の「先生運」

校長 小川 義男

小学校時代の私は「先生運」が悪かった。一年生に入学したときの先生は、三浦先生という女の先生であった。厚化粧ではあったが良い先生だったと思う。美人であった。

入学して間もない頃の私は、上級生と同じように、一度先生に「お早うございます」と挨拶したいものだと考えていた。だが街で容易く先生にお会いできるものではない。だが、ある日の夕方、三浦先生があちらの方から歩いておいでになった。私の胸は高鳴った。「オハヨウゴザイマス」上手にご挨拶できたと思った。しかしその瞬間、その時が朝ではなく夕方であることに気がついた。「しまった」と顔が赤くなった。ところが三浦先生は、さり気ない表情で「お早うございます」と答礼なさった。意識して自分も「間違われた」のである。こんな先生が立派な先生でない筈がない。以来私は先生の白粉の匂いを気にしなくなった。

だが三浦先生とのご縁は意外に短かった。家が引っ越しすることになったからである。それからの私の「先生運」は散々であった。

ふとした原因から一年生の私は三ヶ月以上、学校を隠れ休みすることになるのだが、先生はその間一度も家庭訪問をしなかったし、家に手紙を届けるというようなこともなかった。今考えると「とんでもない教師」だったと思う。

二年生になった。休み時間になると、みんなが「先生」「先生」とすがりつく。私もその群れに入ろうとした。何と先生は、「小川さんは駄目、お鼻がつくからね」と言うのである。手で押しつけるもした。はな垂れ小僧は駄目なのである。一部の子供達は、先生のご自宅に招待もされていたらしい。しかし私や私の悪童仲間には、ついぞお声のかかる筈もなかった。しかし私はくじけなかった。「べらぼうめ、先生の家になんか行くか」私は、そのように可愛くない子どもだったのである。四年生になると、それはもう悲劇であった。中学校(今で言えば高校二年生の年齢までの生徒が学ぶ学校)を卒業したばかりの先生が、むら気で、わがままで、取り巻きを作り盛んに依怙贖するるのである。しょっちゅう子どもを殴った。学年体育の時間などには、女の先生といちゃいちゃしたりしていた。赤川という女の先生は、隣の学校の校長の娘であったが、どうやら至極わがままに育った人間であったらしい。その赤川先生と私の担任が、私の悪口をあからさまに語るのである。「こいつな

あ、汚いんだよ」と言うような話であったと思う。赤川先生が軽蔑のまなざしで私の手を取り上げた。母のいない子でもあり、私の手は触れるのもためらわれるほど汚れていた。「小川さんの手汚いわねえ、あんた風呂になんか行ったことないんでしょ」今思い出しても信じられない言葉である。それがふたりの男女教師の微妙に艶めかしい雰囲気から発しているだけに、怒り心頭に発した。「風呂なんか毎日行ってるわい」それが私の返答であった。「おおこわい」赤川先生は私を離れた。担任の男教師は、目撃してはいたが、私を叱責することはなかった。今なら新聞八段抜きで報じられるような話である。

ところが五年生になると様子が一変した。短い期間に担任が替わったが、伊藤先生も渡辺先生も、信じられないくらい私を可愛がった。「俺はちっとも可愛くないのに、伊藤先生はどうしてこんなに俺を可愛がるんだろう」私は自分の姿を体育館の鏡に映したものである。そこには、相変わらず薄汚くて可愛くない少年の姿があった。

当時は戦時中で、男の先生が出征することがあった。そのような時は全校生徒が駅まで見送りに行く。そのような時私は、まだ独身の伊藤先生の下宿の周りを早朝からうろついていた。駅まで先生と一緒にきたかったのである。後任の渡辺先生も同じように私を可愛がった。二人とも師範学校(今の学芸大学)の卒業であった。生徒を怒鳴ったりする事は一度もなかった。増して殴るような場面は想像する事もできない。彼らは生徒を見る上で、目の付け所が違ったのである。

六年生になると、重ねて素晴らしい先生に巡り会った。佐藤房夫先生と申し上げる。私の成績は鰻登りに向上し、中学受験の時にはすべてが優という状況であった。この三人の師範学校卒の超ベテラン教師との出会いがなければ、今日の私はなかったと思う。

佐藤先生には一度だけ蒲の穂で叩かれたことがある。集合に遅れて、他の一人と一緒に叩かれた。蒲の穂がぱっと散ったが、痛くはなかった。しかし先生はいつもやさしかった。援農作業の折り私は、葦の葉で指を切った。葦の葉での怪我だから大した傷ではない。しかし先生は、「ぼやぼやしているからだ」と笑いながら、極めて心配そうに、慎重に私の傷を調べた。当時はヨージムチンキという消毒薬があった時代だが、先生は私の顔を見て、「小川、これをつけると痛いぞ。泣くなよ。」と笑いながらヨーチンを塗った。なるほど痛かったが、私には先生の意外な優しさへの驚きの方が大きかった。考えてみれば、当時の小学校では、高学年にベテランの教師を配していたのかも知れない。それにしても素晴らしい先生達であったと思う。

諸君は「生徒」と「弟子」はどこが違うと思うか。システムによって教師が選定されるケースが生徒で、生徒自らが先生を選んで、その指導を受ける場合が弟子である。これは「師匠」と「先生」という言葉にも置き換えて考えることもできる。師匠の下には弟子が集まってくる。師匠は弟子によって選ばれるのである。これに比べ「先生」は、学校という教育制度によって「生徒」を特定し、それぞれのクラスや授業に配置される。

大学も同じであるが、大学院は違う。大学院では学生と呼ばずに弟子と呼ぶのが一般的である。弟子が師匠を求め、選んでその下に集まってくるからである。

さて諸君、諸君は新たに教師を選ぶ場合、私を師匠として選んでくれるであろうか。私だけには限らない。すべての「先生」が、生徒が選ぶ場合にも自分を師として選んでもらえるような、即ち「先生」から「師匠」にアウフヘーベンできるような教師を目指さなければならぬ。

人生で「師匠運」ほど重要なものはない。師も自戒しなければならぬが、弟子も、学校という大組織の中で、師と呼ぶに値する人物に巡り会えるよう心がけていなければならないと思うのである。

平成19年 5月 1日



# 藤 桐

第196号

狭山ヶ丘高等学校 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

さらに高く飛翔しよう

校長 小川義男

「サンデー毎日」によると、「10年で伸びた350校」のひとつとして本校が紹介されている。東日本で本校は全国22位にランクされている。県内私立では、トップが開智、栄東、川越東と続く。本校は県内第4位である。来年度は早稲田100 東大5を達成したい。何とか埼玉県トップの進学校を目指したいものである。

世の中に様々な競争があるが、大学入試くらい厳正公平な競争はない。こんな公平な戦いに、努力不足の故に敗れたのではあまりに残念な話ではないか。

参考書漁り 情報漁りをするな

いつの時代にも受験情報にべらぼうに詳しい人間がいる。参考書を大量に持っている人間もいる。学校に平行して予備校に通いたがる人間もいる。これらの人々に共通する傾向は何だと諸君は思うか。お答えしよう。いずれも努力をあまり必要としないということである。

私の高校時代にも、このような「情報屋」がいた。しかしこのような生徒は、必ずと言って良いほど入試に失敗した。

森田君という満州から引き上げてきた地味な生徒がいた。平素目立たぬが、模擬試験でかなり上位を占める生徒であった。私は彼の隣に座っていたのでよく知っていたのだが、彼は参考書を全く使わなかった。繰り返し繰り返し彼が読み込んでいたのは、高校の授業を記録した自分のノートであった。当時から赤や青の美しい表紙の参考書が氾濫していたのだが、森田君の机の上は、教科書かノートしかのっていないのだから、何とも地味な雰囲気であった。彼も地味な感じの生徒であった。しかし彼は、その風貌とは別に強烈な個性を持っていた。他人の言動に流されることなく、常に己を堅持していた。結局彼は札幌医大に進んだ。北大医学部ではなかったから、もしかすると一期校の北大に



は失敗したのかも知れない。彼はその後も、堅実な人生を歩んだのではないかと思う。

英語は教科書中心で学べ

**Crown** は本当に素晴らしい教科書だと思う。英語が不得意な人は、英文法にこだわって枝葉末節を追うのではなく、先ず教科書を I II と読み進んで欲しい。三年用は III ではなく **Reading** というタイトルだが、これも読破して欲しい。ゆとり教育に伴う指導要領改訂で I II の単語は著しく縮減されている。しかしそれだけに勉強しやすい。基礎的基本的な部分をしっかり学ぶには、この方が良いかも知れぬ。だが早慶その他の難関大に進むにはあまりにも語彙が貧困である。だが安心して欲しい。**Reading** は、この点に配慮したものか、十分な語彙量を盛り込んでいる。**Reading** は「選択英語」として「ゆとり」に配慮する必要がないものとして形成されているからそうなのであろう。だから **Reading** は、一段と難しい。「急に難しくなった」諸君はそう感じるかも知れない。

しかしこの **Reading** をマスターすれば、どの大学を受けるにしても英語で困ることはない。「英頻」その他様々な参考書が世に溢れているが、一番大切なのは長文読解力である。だから先ず何よりも、この **Crown** 3 冊を完全にマスターすることが大切なのである。

この 3 冊を五、六回、深く意味を考えながら繰り返し読んでいけば、諸君の語彙、構文読解力は目立って向上するはずである。英語が得意な人も不得意な人も、先ず教科書の完全マスターを目指して努力することだ。一年生でやっている私の朝ゼミでは、今月で **Crown** の I を終わる。五月よりは II に入り、これも一学期中には完了する。**Reading** も十二月末までには読了する予定である。

英文法に関しては、各レッスンの末尾にある **Grammar** を活用して欲しい。これだけをコピーして小冊子にまとめるのもひとつの方法である。このようにコンパクトなもので、教科書を中心に英文法を学び取ることが大切なのだ。

また必ず **CD** を繰り返し聞いて欲しい。さらに自分でも音読することが大切だ。このようにして「地味な学習」を積み重ねていけば、諸君の英語力は飛躍的に向上するのである。片々たる短文を追いかけてたりすることは絶対に慎んで欲しい。

来年は早稲田 100 人合格を目指す。できない相談ではない。私が今述べたところを忠実に守って英語をマスターすれば、他の科目はひとりについてくる。問題は英語だ。予備校に頼ったりせず、教科書と自分自身を信じて目標を突破してもらいたい。

私の学習方法に対する批判も様々なかたちで存在しよう。だが平成四年に私が着任した当時、本校は名もなき大学の推薦試験を主戦場とする、言ってみれば生徒を大学に送り込むことのできない学校であった。しかるに今日はそのような状態ではない。この十五年を振り返れば、それは学習方法に関する戦いの歴史でもあった。その果てに本校は、県内屈指の進学校としての地位を獲得したのである。私が薦めるこの「地味な英語学習法」を信じて全力を尽くして欲しい。私は先生方、諸君と共に、何としても県内第一位の進学校を確立したいのである。

平成19年 4月10日(火)



# 藤 桐

第195号

狭山ヶ丘高等学校 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

## 入学式辞 (要旨)

校長 小川義男

ただ今 368 名の諸君の入学を許可致しました。今年の本校入学試験は、特段に合格が難しいものでありました。諸君が様々な困難を乗り越え、本日の入学を迎えられたことに心から敬意を表します。

昨年度の本校卒業生の大学進学実績は飛躍的と言えるほどのものでありました。何よりも、早稲田大学の合格者が 31 名に達しました。前年度の合格者が 11 名であったことに比し、まさに画期的成果と呼んで過言ではないであります。

また MARCH 即ち明治、青山、立教、中央、法政等各大学の合格者が 184 に達したことも注目すべき傾向であります。これまでは、いわゆる日東駒専が主流だったのでありますが、これが 179 に留まり、MARCH がこれと入れ替わりました。

国立公立大学の合格者も 41 に達しております。詳細は資料に当たって調べて頂きたいと思いますが、今や本校は、埼玉県の押しも押されぬ進学校として、その名声を高めております。諸君の卒業に当たっては、早稲田 100 東大 5 という私の悲願を是非達成して頂きたいのであります。

既に諸君は、一日八時間、七日間連続という「入学前特別指導」に耐えて、本日の入学式を迎えました。また諸君のほぼ全員は、この七日間に、クラウンリーダー I 全体の予習を終わりました。朝ゼミでは、12 月末までに、二年、三年のリーダーの学習も終わる予定であります。どうか二年生になった朝からは、「英字新聞を読める高校生」に脱殻して頂きたいのであります。

厳しい学習指導に明け暮れる本校ではありますが、最初の一年間は、勉強よりは、むしろ豊かな人間性を養うことに重点を置いて下さい。何よりも先ず、鋭い感性を養って頂きたいと思います。公園に行ったようなときも、ベンチにばかり座っているのではなく、芝生に直接触り、頬を青草に触れさせて、その感触をつかみ取ってもらいたいです。素足を夜露に濡らすことなども、是非経験して頂きたいと思います。月の美しい夜は、散歩に出て夜気に触れたり、夏の日には、山に登って峠の風に吹かれて下さい。このようにして培われた鋭い感性があつて初めて、徒然草や枕草子の本当の意味をつかみ取ることができるのであります。ゴールドスマスそのほか、外国の作家や思想家の精神に触れるためにも、このような鋭い感性はなくてはならないのであります。

また、この一年間は、努めて読書に励んでください。読書は時代を離れて天才と交わり、淋しいときには孤独を慰める、人生最高の友であります。英語の難しさも、間もなく思想そのものの難しさに変わってきます。時を大切に、大いに読書に励んでください。

本校教育の根本理念は「自己観察教育」であります。本学園創立者近藤ちよ先生が創案なさった「自己観察教育」とは、黙想を通じて深く己を見つめ、自分の生き方を自分で発見させようとする教育、言わば「自分の中に自分の先生を見つけさせる」教育であります。諸君自身が己を深く見つめ、「何のために学ぶのか」ということを深く考えて頂きたいのであります。

さて諸君、人間の幸せとは、何だと思われますか。私はそれは、愛する者のために生きることだと考えております。人は誰でも愛する人を持っております。諸君の父であれ、母であれ、妹や弟であれ、その愛する者に危難が迫ったとき、諸君は、我が身の危険を忘れて、救出のため戦うでありましょう。人は、愛する者のためには、我が命すら惜しまぬ特別な生き物なのであります。どうか家族、特に諸君の父、母を大切にすることを諸君の人生の拠り所と心得てください。さらにその愛の対象を、家族から友人へ、友人から社会や国家へと拡大して行って頂きたいのであります。英雄とは、自らに対する愛が、国家、社会への愛と完全に融合している人間を言うのであります。

諸君は疑いもなく優秀な方々でありますから、将来社会的に必ず大成されるであります。しかし、自らの優れた資質を、自分の出世や蓄財のためにのみ用いる「醜い日本人」になってはなりません。フランス語にノブレスオブリージュという言葉があります。優れた人間には、自らの資質を、民衆や国家のために役立つ義務があるという意味であります。どうか生涯を通じて、このノブレスオブリージュを貫いてくださることを期待致します。

すべての集団がそうであるように、本校には、諸君が守らなければならぬ校則があります。諸君の人間性を向上させ、学校生活を楽しく、充実させるための最低限度の決まりであります。本校はこれについて、ゼロトレランス、すなわち違反には容赦をしないという姿勢で臨みます。今日は、言い張りさえすれば、若者のどのような我が儘も押し通すことができる、社会精神、国民精神が衰弱した時代であります。だが本校は、そのように甘い学校ではないことを理解してください。諸君の人権を尊重し、諸君の成長のためにはどのような努力も惜しみませんが、反面本校は、校則違反を断じて許さない学校であることも肝に銘じておいて頂きたいのであります。この点、保護者の皆様にも、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。理不尽な我が儘に対し、本校は絶対に妥協するものではないことをご承知おき頂きたいのであります。

昨今、学校は楽しいところでなければならないとの見解が支配的であります。しかし、学校は遊園地ではありません。確かに若さ溢れる諸君が集う学校は、楽しいところでありますが、それは、苦しみと共にでなければ存在できない、そのような楽しさであることを理解して頂きたいのであります。

保護者の皆様、お子さまは確かにご預かり致しました。私ども教職員一同、全力を尽くし、三年後、見事に成長した姿でお返しすることを約束致します。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

本日は、ご多忙の中、多くのご来賓の皆様のご来駕を忝のうしております。ご多忙の中、ご臨席賜り、入学生の前途に祝福を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

さて、新入生諸君、前途は洋々としております。決意も新たに、躍進狭山ヶ丘の新しい担い手として、我々の戦列に加わってください。力を尽くして諸君の成長のため努力することは我々教職員の最大の喜びであります。偉大なる明日を目指し、共に戦うことを誓って祝辞と致します。